

持続的な「信頼」は「NG」から生まれる

2024・3・18 校長 重枝一郎

「信頼」と「信用」という言葉は、同じような場面で使われていることがあります。でも実は、この2つの言葉がもつ意味は大きく異なります。「信用」は「信じて用いる」と書きます。つまり「信じて（その相手の能力を）使うこと」を意味する言葉です。一方「信頼」は、「信じて頼ること」を意味します。相手のことを信じた上で頼りにし、助けてもらうということです。こう考えてみると「信用」と「信頼」の違いはわかると思います。「信用」は「この人なら役に立つだろう」と相手の能力に注目していますが、「信頼」は「この人なら助けてくれるだろう」と相手の人間性に注目しているのです。

さて、みなさんは落ち込んだとき誰に連絡しますか？

自分のことを昔から知っている幼なじみ？ 部活でいつも相談に乗ってくれる先輩や友だち？ 大人の誰か？ 考えてみたら知識や経験を持った大人の方が悩みの解決に導いてくれる可能性は高いかもしれません。それでもそうでない選択をすることが多いのではないのでしょうか。やはり判断基準は、自分の話を親身になって聞いてくれることだと思います。言い換えれば「**信頼**している人を選ぶということです。この感覚はまさに「能力」でなく「人間性」で相手を見るいい例だと思います。

逆によく相談に乗ってもらっている友人が困ったり落ち込んだりしたらあなたは どう思いますか？ その友人を助けたいと思うはずですが、もし先に助けてもらっていたらなおさらだと思います。自分が相手に頼ったように、相手に頼ってもらえたら、うれしさもあると思います。なぜなら「頼ってくれた」とうことは相手が自分を「**信頼**」してくれている証だからです。

私たちは誰かに頼らなければ生きていくことはできません。それと同時に誰かに頼ってもらえる存在でありたいとも思うのです。これを「**仲間**」と言います。**本当の仲間は「頼り、頼られる関係」**を言います。

だから「仲間」は大切です。でも「仲間」はつくることよりも、続けることの方がずっと難しいのです。

そこで、「**仲間**」の**持続的な関係は「NG」から生まれる**ことを知っておいてほしいと思います。友人から頼まれても、時に「それは無理だな〜」と思うときは必ずあります。だから「ここまでではできる」「これ以上はできない」という「NG」をはっきりさせておくことが関係性を長続きさせるポイントになります。そのためには「NGを言い合う」ことを普通にするのが大切になります。つまり「OK」と「NG」の日頃の種まきが**重要なのです**。例えば「難しい時は断るから遠慮せず何でも相談して」とか「いろいろ相談することもあると思うけど無理だと思ったら気軽に断ってね。それで嫌いになったりしないから」のような会話をするのがいいと思います。

私は昔から生徒に対して、「**助けてもらう力**」の話をしていました。今回の「**信頼**」につながる話です。「人は助けてもらうと、助けてくれた人のことを好きになる。そして、今度はその人が困ったら助けようと思う。これは、**人を好きになる秘訣**になる。だからあなたが助けてもらう力を発揮すると、どんどんクラスの雰囲気はよくなるし、学力も上がっていくよ。助けてもらおう！」

みなさんは「**自立**」は**個人の話**と思っているかもしれませんが、でも私は、「**自立**」は、**周りの人と適度に依存し合うこと**で、「**自立**」につながっていくと考えています。

次の学年でも「**仲間**」と助け合い、磨き合おう。